

海外安全対策情報（ドバイ及び北部首長国：在ドバイ総：2018年第2四半期（4月～6月）分）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

(1) 一般犯罪

ドバイ警察によると、治安対策プログラムによりパトロール及び検挙等の対策を強化したアル・クセース警察署管内における2017年の重要犯罪の認知件数は、過去2年間と比べると40.6%減少した。

アジュマーン警察によると、アジュマーン警察は、2017年中に、国際刑事警察機構手配の殺人事件の外国人被疑者4名を含む454名の手配被疑者を逮捕した。

(2) テロ

特記事項なし。

(3) デモ・騒擾等

特記事項なし。

(4) 外交団に対する犯罪

特記事項なし。

(5) 日本人に対する犯罪

特記事項なし。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

○ ドバイ首長国（4月8日発生）

ムラカバット警察署管内のホテル客室において、渡航中のアラブ人の男は、米国人ビジネスマンを木製の板で頭部を殴打して殺害し、財布を奪い、在中品のキャッシュカードを共犯者のアラブ人に渡すなどしてATMから現金を引き出した。

○ ドバイ首長国（4月20日報道）

アル・バーシャ警察署管内のアパートにおいて、パキスタン人の男は、買春相手のエチオピア人女性から200ディルハムの追加支払を要求されたことに腹を立て、同女性の首を絞めて殺害した上、現金450ディルハムと携帯電話2台を奪った。

(2) 強姦・強制わいせつ

○ ドバイ首長国（4月14日発生）

バール・ドバイ警察署管内のショッピングセンターにおいて、パキスタン人運転手の男は、店内で父親と離れた場所にいたニュージーランド人少年の背後に立ち、身体を触るなど、強いてわいせつな行為をした。また、同男は少年と一緒に店内にいた妹の少女に対しても同様に身体を触るなど、強いてわいせつな行為をした。

○ ドバイ首長国（4月発生）

アル・クセース警察署管内のビルにおいて、インド人経営者の男は、エレベーターにいた下校中のインド人少女に抱き付き、無理矢理頬にキスをした上、怖くなって逃げようとした同少

女をつかんで引きずり戻し、さらに身体を触るなど、強いてわいせつな行為をした。

また、警察の捜査により、同インド人の男は、過去に、被害者の妹にも同様のわいせつ行為をしていたことが判明した。

○ ドバイ首長国（5月9日発生）

アル・バーシャ警察署管内において、UAE人の公務員の男は、インド人少年が同級生と口論となった際にけんかに割って入り、同インド人少年を殴打した上、暗がり引きずり込み、衣服を無理矢理脱がせて強姦した。

(3) 強盗、放火

○ ドバイ首長国（4月25日発生）

ムラカバット警察署管内の店舗事務所において、湾岸諸国国籍の男等10名は、共謀して、店舗オーナーのアジア人兄弟を商取引とビットコインの売買のためと欺いておびき出し、同事務所内で脅迫した上、緊縛するなどして、現金700万ディルハムを強取した。

○ ドバイ首長国（5月12日発生）

ドバイのショッピングモールにおいて、アジア人運転手の男は、同僚のアジア人男性と口論となった後、駐車場に駐車中の同男性の車に火を放ち、その火を近くに駐車していた車10台に燃え移らせ、合計11台の車両を焼損させた。

○ シャルジャ首長国（6月25日発生）

シャルジャの銀行において、アラブ人3名とアフリカ人2名の合計5名の男は、共謀して、覆面をして銀行に侵入し、同行職員と居合わせた客を脅迫して、現金を強取した。

○ フジャイラ首長国（6月下旬発生）

フジャイラの両替所において、3名の者は、共謀して、店舗に侵入し、従業員を鋭利な刃物で脅迫した上、現金を強取した。

3 日本企業の安全に関する諸問題

特記事項なし。